

Aim マイクロンライト(model MCL)ユーザーズガイド

イントロダクション

マイクロンライト(model MCL)はスモールサイズながら大きな数字のディスプレイを持ち、ラップタイムが表示可能です。また、最大 480 周分のラップタイムを記録します。マイクロンライトは、これらのデータとは別に使用時間も記憶しており、エンジンメンテナンスの目安として用いることもできます。

使用のための準備

新品のマイクロンライト(model MCL)を正しくお使いいただくため次の簡単なステップに従って設定を行ってください。5分もあれば終了できます。

電源

ON ボタンを押すと電源が入ります。電源切断はNEXTとONを同時に押します。

初期設定

- MENU ボタンを 3 回押します。画面に **MIN LAP** と表示されるはずですが。
最短のラップタイムを 8 から 250 秒の間で設定できます。CONF ボタンを押すと現在値が表示されます(工場出荷状態は 8 です)。この値よりも少ない時間でラップマーカーから信号を受け取ったとしても、無視します。赤外線式ラップセンサでラップマーカーが乱立してしまったときなど、誤作動を避けるために設定します。予想されるラップタイムよりも数秒少ない値を入力します。実際のラップタイムよりも大きな値を入力しないように注意してください。
- 値を設定する場合、NEXT ボタンを押すと点滅している桁の数字が増えます。次の桁に移るためには、CONF ボタンを押します。
- 最短ラップタイムを設定したら MENU ボタンを押します。
- VIS TIME**
最新のタイム表示から、経過時間表示に切り替わるまでの時間を設定します。後述の **TIMER** で **n** に設定している場合には経過時間への切り替えは行われず、常に最新のタイムが表示されます。
- VIS TIME** を設定したら MENU ボタンを押します。
- TOT SPLIT**
複数の磁石(マーカー)が埋設されているコースなどでは、ここの数字を入力することで区間タイム(最初のマーカーからの累積タイム)を計測することができます。区間タイム用のマーカーの数を入力します。つまり、マーカーの合計数マイナス 1 です。
- TIMER**
走行中の表示内容を切り替えることができます。Y(YES)を選択すると、その周回の経

過時間がリアルタイムで表示されます。一方、 $n(NO)$ を選択すると、一つ前の周回のラップタイムが常に表示されます。CONF ボタンで切り替えることができます。

8. MENU ボタンを押すと初期画面に戻ります。これで設定は終了です。

この他メニュー

前章で初期設定が終了しましたが、この章では他のメニュー項目とその機能について説明します。次のメニュー項目に移るには、MENU ボタンを押します。

TOT RUN

マイクロンライトは、累積走行時間を記録する独立したタイマーを持っており、このメニューで表示できます。MEM ボタンを押すと現在値が表示されます。このタイマーをリセットするためには、ここで CONF か MEM ボタンを押し、確認メッセージが表示されている状態で MEM ボタンを押して確定します。

CLR DATA

すべてのテストデータを消去します。ただし、累積走行時間には影響を与えません。MEM か CONF ボタンを押し、確認メッセージが表示されている状態で MEM ボタンを押して確定します。

使用方法

マイクロンは、電源を入れるだけで走行する準備ができます。TIMER モードを Y(YES) に設定している場合には、経過時間が表示され始めます。

コースサイドにおいたラップマーカーの前を通過する(赤外線式の場合)か、埋設された磁石の上を通過する(磁気式の場合)とラップタイム(もしくは累積区間タイム)が表示されます。TIMER モードを Y(YES) に設定している場合でも、WIS TIME で設定した秒数の間はラップタイムが表示され、その後経過時間表示に変わります。

なお、走行中(マイクロンライトが作動中)に ON ボタンを押せば、経過時間表示と前の周回のラップタイム表示を切り替えることができます。

走行が終了したら MEM ボタンを押します(これで、走行が終了した事をマイクロンライトが確認します)。これでデータ呼び出しモードに入り、ディスプレイには、ベストラップタイムが表示されます。

矢印キーでタイムすべてを閲覧することができます。後に進めるには >> キーを、前に戻すには << キーを押します。

データを消去するには、データ呼び出しモードで ON ボタンを 1.5 秒以上押すか、前述の CLR DATA メニューを使用します。

取り付け

ディスプレイ(本体)

ディスプレイ(本体)はカートのステアリングホイールにタイラップで直接取り付けられるように設計されています。4輪やバイクでは、両面テープなどで固定してください。



ラップセンサ

1. 赤外線式の場合

赤外線受信器(ラップセンサ)をラップマーカを設置したコースサイドに向けます。また、赤外線は不透明な材質に遮断されてしまうため、ラップマーカまで見通せる状態にしておかなければなりません。受信器の端にある小さなレンズで信号を受けます。受信器はベルクロや両面テープなどで固定します。



2. 磁気式の場合

センサに記載されている矢印方向を、車体の前後方向と合わせて、なるべく低い位置に取り付けます。埋設されている磁石の強度などによって異なりますが、通常地上高30cm程度まで反応します。動作を確実にするためには、20cm以内の位置に取り付けてください。

感度が低くなってしまいますので、鉄などの磁性体からはなるべく離れた場所に、ベルクロや両面テープなどで取り付けてください。

センサに記載されている矢印方向と車体の前後方向を合わせれば、上下左右の向きは取り付けやすい方向でかまいませんが、一番感度が高くなるのはラベル面を上にした場合です。高い位置に取り付けなければならない場合などには、できるだけラベル面を上側にして取り付けてください。



ラップマーカ(赤外線式ラップセンサの場合)

ラップマーカ(赤外線発信器)を、コースサイドのなるべく走行ラインが近い場所に置きます。また、ラップマーカは受信器と同じくらいの高さに置く必要があります。

ラップマーカは、右上の円形に配置されたLEDから赤外線を発信します。裏面に電源スイッチと外部電源の入力コネクタがあります。

使用するためには、裏面から4本のビスをゆるめてカバーを外し、単3型乾電池を8本か、006P型9V電池を1本取り付けます。通常、新品の単3型アルカリ電池を装着してから20時間使用できます。Powerランプが点滅したら電池を交換してください。



外部電源を使用する場合には、乾電池は必要ありません。外部電源はDC12Vのものをお使

ください。付属する外部電源ケーブルにはシールドバッテリー用のコネクタが取り付けられていますので、赤いコネクタを+(プラス)端子に、黒いコネクタを-(マイナス)端子に取り付けてください。なお、外部電源用ケーブルをラップマーカの外部電源入力コネクタに取り付けると、内部の乾電池はバイパスされて使用されません。内部電源を使用する場合にはケーブルを取り外してください。

設置場所が走行ラインから20m以上離れてしまう場合には、ハイパワーモードにしてお使いください。ハイパワーモードにするためには、電池交換と同様にカバーを外し、基盤下部にあるジャンパーピンを接続します。ショートピンを一度取り外し、2本のピンを接続させます。ハイパワーモードの場合、電源ランプ下の20mランプが点灯します。カートコースなどで使用する場合、ハイパワーモードにする必要はないでしょう。



重要: マイクロンのラップマーカには周波数(チャンネル)切り替え機能はありません。使用する台数に関わらず、コースに必要なラップマーカは一つだけです。

ラップマーカの信号ビームは約17度(3:1)で拡がります。言い換えれば、3m離れた地点での信号ビームの大きさは約1mになります。他社製のものも含め、赤外線方式のラップマーカがそばにおいてあると、光波が干渉してしまい、マイクロンが信号を拾えなくなることがあります。このような場合、ビーム拡がり角度を参考に、他のラップマーカから適当な距離を離して設置してください。通常の使用条件であれば、5m程度離して設置すれば良いでしょう。

サポート

24時間無償サポートをご利用下さい。

Aim s.r.l. 日本語オフィシャルウェブサイト サポートページ

<http://www.aimsports.jp/support/index.html>

お問い合わせが多いトラブルの解決方法など、FAQを掲載しています。

お電話でのお問い合わせはお受けできません。上記ページからメールでお問い合わせいただくか、FAX(03-6452-4594)でお願いいたします。